

## 芦屋港活性化における課題

# 1. 芦屋港活性化における課題

芦屋港活性化を検討するにあたり、現時点で明らかになった課題の整理を行いました。

## 1 港湾用途変更及び砂事業者に関する事項

- 芦屋港はもともと産業港として整備したものであるため、港湾管理者としては現在の利用事業者が今後も継続利用を強く希望している中、一方的に使用を認めないという判断をすることはできない。

## 2 維持管理に関する事項

- 芦屋港が産業港として整備あるいは維持管理されてきたことを鑑みれば、物流機能を残しておき、これまでどおり県が港湾管理者として維持管理していきたいと考えている。

## 3 港湾管理者として必要なスペースの確保

- 「九州・山口9県災害時応援協定」の中で「広域海上緊急輸送基地」として位置づけられているため、一定の岸壁や野積場を確保する必要がある。
- 定期的な浚渫時の浚渫土砂一時保管スペースの確保。

## 2. 完全レジャー港化及び物流機能との共存に対するメリット・デメリットの整理

芦屋港活性化のための将来像検討において、現在判明している課題（前ページ）を受け、完全レジャー港化及び物流機能との共存の場合に、どのようなメリット・デメリットがあるかを整理しました。

	メリット	デメリット
完全レジャー港化	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観光要素を持った一体的な景観形成が可能</li><li>・ 町内外の他施設との連携や動線を形成しやすい（効果的な動線形成が可能）</li><li>・ 海面を活用した機能の自由度が高くなる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業化に多くの年数を要する。</li><li>・ 県が今までどおり管理ができなくなる可能性が高い。</li><li>・ 現事業者との移転交渉が必要</li></ul>
物流機能との共存	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業化のスピードアップが可能</li><li>・ 県が引き続き管理し、湾内の浚渫・港湾補修等は県が実施可能。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観光施設と一体的な景観形成が困難（海が望めない立地となる）</li><li>・ 観光面からの効率的な動線の確保が困難</li><li>・ 海面を活用した機能の活用範囲が限定される。</li><li>・ 観光客と事業者の事故や苦情回避の対策</li></ul>